

16

リビングフィールド

2026年
8月スオスダイ！
(こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいされ、カンボジアでの宣教活動での継続が導かれました。

2024年1月に支援グループ「リビングフィールドの会」が発足し、更に2025年8月には、韓国の宣教団体「WUPM」への加盟が実現しました。主の御言葉と導きによって、現地での活動を継続しています。

近況報告

皆さま、いつも温かいお祈りとご支援、本当にありがとうございます。6月から8月にかけて、今年も日本一時帰国の恵みを与えられました。2023年から毎年このような機会が与えられていることを感謝しています。約2か月の日本滞在中、各地の教会で昨年にも増してに喜びと励ましの出来事が起こされ、神様が確かに働かれていることを、これまで以上に強く実感した滞在となりました。以下、各地での出来事から、抜粋してお伝えします。



カンボジア帰国後、最初の主日礼拝にて
出迎えてくれた子どもたち



カンボジアカフェ、マクラメワークショップ
完成したキーホルダーを手に

カンボジアカフェ
—東京北キリスト教会—

6月14日（日）、東京北キリスト教会の主日礼拝に出席させていただきました。同教会では2022年の新会堂完成以来、地域宣教の一環として「コミュニティカフェ」を展開されています。今回開催された「カンボジアカフェ」では、現地のデザート提供やマクラメアートのワークショップ等を行いました。近隣にお住まいの方が急きょご参加くださるなど、大変恵み多きひと時となりました。さらに、今年2月に認定NPO「CFF」のキャンプで、CBUオフィス教会を訪問してくれた学生との嬉しい再会もありました。すでに立ち上がっている様々なプログラムや宣教活動を通して、地域にキリストの愛と福音が更に広がっていきますようお祈りいたします。

見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。
わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。

イザヤ43：19

韓国教会のホスピタリティ —WUPM宣教センター訪問—

6月中旬、約1週間の日程で韓国WUPM（世界未伝道部族宣教会）本部を訪問しました。首都ソウルから西へ車で約2時間、唐津（ダンジン）市郊外にある宣教センターは、コロナ禍真っ只中の2021年に完成した施設です。礼拝堂やセミナー室、ゲストルーム、宣教メモリアルルームに加え、テニスコートやバスケットボールコートも備えた多目的センターです。100以上の教会と個人の祈りと献金によって建てられました。世界各地に派遣されているWUPM宣教師が、休息やリトリート、訓練、報告のために無料で滞在できるようになっています。



WUPM宣教センターにて
ミャンマー派遣宣教師のリッキー先生と（右端）



（左）韓国教会での宣教報告の様子。通訳をされる伊藤仁先生
（右）WUPM代表 チョー・ジャンヨン先生と記念写真

滞在中、センター近隣の3箇所の教会で宣教報告をする機会に恵まれました。各教会の牧師先生や教会員の方々が、初訪問の私たちを大変温かく迎えてくださいました。また、同じくWUPM宣教師であるリッキー先生が、出会った翌日に、自身の故郷である全州（チョンジュ）を丸一日かけて案内してくださいました。各地で出会った人々のホスピタリティに圧倒された1週間でした。センターで温かく迎え全面的にサポートして下さったチョー代表（右の写真）、アンドリュー先生、そして主に通訳として助けてくださった伊藤仁先生に心より感謝いたします。

だれでも食堂夕焼けこやけ —福井キリスト教会—

今回、3年ぶりに福井教会への訪問が実現したことを主に感謝いたします。6月26日（金）の「だれでも食堂夕焼けこやけ」の準備から参加できたことは大きな恵みでした。宗教や教派を超えて多くの働き手やサポーターが与えられていること、そして何より「夕焼けこやけ」が地域の人々に親しまれる憩いの場となっていることを肌で感じました。生きて働かされている主の導きを実感したひと時となりました。



「だれでも食堂夕焼けこやけ」にて
食事をされながら、カンボジアの話に耳を傾ける



福井キリスト教会、主日礼拝
メッセージ「愛のたね」に熱心に耳を傾ける子どもたち

28日（日）の主日礼拝にて、つい二日前に食堂に来てくださった方の多くが礼拝にも参加してくださいました。本当に大きな喜びの出来事でした。また、カンボジアの小倉（おぐら）小学校の児童たちのためにたくさんの献品をいただき感謝しております。主が立ち上げてくださった「だれでも食堂夕焼けこやけ」やその他の活動を通して、福井キリスト教会が、より地域に親しまれる場所に、コミュニティの中心になっていきますように、そして神様の祝福が地域に広がっていきますように、心よりお祈りいたします。

世界に目を向ける子どもたち —横浜市立さつきが丘小学校—

7月13日（月）、横浜市立さつきが丘小学校を訪問し、お昼休みに5年生クラスの子どもたちにカンボジアの文化と歴史、現地の活動を紹介する場が与えられました。さつきが丘小学校では、青葉キリスト教会牧師、三宅友子先生が長年ボランティアをされています。その一環で、カンボジアの公立小学校「小倉（おくら）小学校」へ文房具等の献品を贈る活動が今年初頭から始まっています。



さつきが丘小学校、職員室前。
カンボジアの小学校への献品が集まっています。



5年生の生徒たちにカンボジアの活動を伝える。
みんな熱心に聞き、発言や質問をしてくれました。

今回、さつきが丘小学校の特別なお計らいで、カンボジアの文化や現地の活動の紹介し、小倉小学校の様子をお話する機会が与えられました。宣教師が日本の公立小学校で、宣教の話ができるというのは何という恵みでしょうか。集まった60人ほどの生徒たちは、皆積極的に応答や質問をしてくれました。中には、「今日のお話を聞いて、カンボジアに行ってみたいと感じました」と発言する子もいました。近い将来、さつきが丘小学校から、生徒と先生のチームが小倉小学校や私たちの教会を訪問するツアーが実現することを祈っています。

16年ぶりの訪問 —下関バプテスト教会—

ここ数年、小倉キリスト教会（北九州市）での宣教報告会に下関教会の女性会の方々が参加して下さっていました。今回、下関教会での報告会開催の依頼を快く受けて入れてくださり、本当に感謝しております。下関教会へは、神学生時代に伝道隊で奉仕させて頂いた時以来、実に16年ぶりの訪問となりました。その時のことを覚えて下さっていた教会員の方々がおられ、感激いたしました。泉先生と、お連れ合いの恵さんとも本当に久しぶりの再会を喜び合うことができました。



下関教会での宣教報告会の様子
北九州地区で、今年も宣教報告の時が与えられました。

再会のよろこび —飯能バプテスト教会—

帰国直前の8月2日の午後、飯能バプテスト教会で宣教報告会を開催頂きました。武林真智子先生、教会員の皆さまに久々にお会いすることができ、更に岩波久一先生、幸子さんご夫妻との再会を喜び合うことができました。岩波先生は、私たちが宮原キリスト教会に在籍していた時の牧師であり、神学校へと送り出してくださった先生です。更に、ZOOMを通して日立教会や郡山教会からも参加者が与えられたことは、とても嬉しい出来事でした。これまで北関東地方連合では、宮原キリスト教会が唯一の支援教会でした。今回このような形で、主がカンボジア宣教の祈りの輪を広げてくださったことに感謝しています。



（左）岩波久一先生、幸子ご夫妻と久々の再会。
（右）飯能教会での宣教報告会の様子

祈りによって支えられる —入院手術—

7月、和幸宣教師が大腸内視鏡検査を受けたところポリープが見つかり、難しい箇所であったため入院、手術となりました。これにより予定していた幾つかの教会奉仕をキャンセルせざるを得ませんでした。しかしその中で常盤台バプテスト教会での奉仕は、感謝なことに森崇先生を中心に急きょオンラインで対応いただくことができました。

退院後体調は順調に回復し、その後の奉仕日程を無事に終えることができました。帰国直前の再診も問題なく、より健康的に整えられて、宣教地へと戻ることができました。体調管理の大切さを再認識すると共に、周囲の祈りのサポートの大きさを実感する時となりました。



常盤台バプテスト教会 2026.7.12 主日礼拝 ヨハネ福音書講解④「すべての人をひとつにしてください」 嶋田和幸宣教師【ヨハネによる福音書 17章20～26節】(新共同訳 新約P.203)

常盤台バプテスト教会、主日礼拝メッセージ。
急きょ、オンラインでの奉仕に対応いただきました。

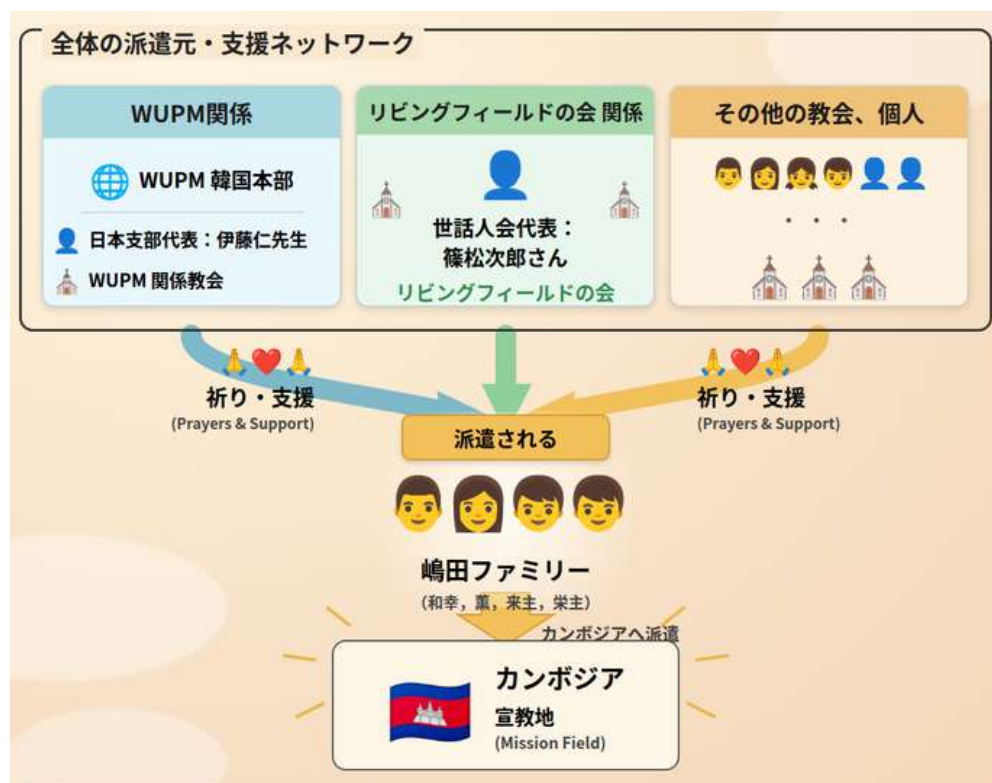


教派を超えた地域イベント「コミュニティカフェ@大久保」
マクラメアートのワークショップを行いました。

NCCエキュメニカル協働基金

今回の定期帰国期間、日本各地で宣教報告活動を行うにあたり、NCC（日本キリスト教協議会）エキュメニカル協働基金による多大なご支援をいただいたことを報告いたします。具体的には、日本国内における交通費やガソリン代、旅費や報告活動に必要な機器、事務用品の購入に充てることができました。今回の充実した宣教報告活動は、この基金による支援があってこそ、成り立つものでした。この場を借りて、心からの感謝をお伝えしたいと思います。本当に、ありがとうございました。

カンボジア宣教 祈りのネットワーク



リビングフィールドの会、WUPM、そしてその他の教会やサポーターによって
私たちは祈られ、支えられ、派遣されています。

私たちはここまで、本当に多くの教会と個人の方々の祈りと支援によって、生活と宣教活動が守られています。そのことを覚え、改めて感謝したいと思います。今から3年前、支援グループ「リビングフィールドの会」が立ち上がりました。世話人代表の篠松次郎さん（常盤台バプテスト教会）と共に、現在約10の教会が中心となって、祈りと支援に積極的に関わってくださっています。また今回お伝えしたように、韓国WUPM本部の訪問が実現し、韓国の教会との関係も始まっています。

この「リビングフィールドの会」につながる教会、WUPMにつながる教会、更には、その他の個人的なつながりによる教会、サポーターからなる祈りのネットワークによって私たちは支えられ、遣わされています。

私たちの願いは、一人でも多くの方々がこの祈りのネットワークに加わり、カンボジア宣教の一部を担ってくださることです。その中で、特に神様から示された方がおられましたら、是非、宣教の現場に来ていただければと思います。

これまで宣教地に、4組の短期宣教ツアーをはじめとする、多くのチームや個人の方々が来てくださり、カンボジア宣教に加わってくださいました。皆さんが来られることによって、現地の方々は励まされ、祈りが強まり、宣教が前進していきます。もちろん短期宣教でなく、観光旅行や視察でも十分です。一人でも多くの方々にカンボジアを知ってほしい、現地で起こされている出来事を目撃して欲しい、そう心から祈っています。



皆さまの祈りとご支援に心より感謝しています。
一人でも多くの方が、祈りの輪に加わってくださいますように。

<日本滞在中、活動・奉仕の機会を頂いた教会・団体等>

横浜JOYバプテスト教会

湘南台バプテスト教会

東京北キリスト教会

WUPM宣教センター（韓国）

ソサン中央ホーリネス教会（韓国）

ヒャンギナムナム（香りを放つ木）教会
（韓国）

ジノクホーリネス教会（韓国）

ダンジン中央ホーリネス教会（韓国）

福井キリスト教会

青葉キリスト教会

常盤台バプテスト教会（オンライン奉仕）

横浜市立さつきが丘小学校

コミュニティカフェ@大久保

（会場：日本福音ルーテル東京教会
CWS Japan主催）

横浜オンヌリキリスト教会

ジーザスファミリーチャーチ（単立）

小倉キリスト教会

下関バプテスト教会

多摩川キリスト教会

宮原キリスト教会

飯能バプテスト教会

<祈りの課題>

1. 神様の宣教に、いつも祈りながら感謝をもって、誠実に仕えていけるように。
2. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
3. 教会近くの小学校「小倉(おぐら)小学校」との関係が深まり、福音を伝える土台が作られるように。
4. カンボジア女性支援活動「希望の糸」。サポーターが与えられ、新しいメンバーの参加が導かれるように。
5. 全ての必要を満たしてくださる主をいつも待ち望み、信頼して歩んでいけるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫（WUPM宣教師）、来主（くろす、17歳）、栄主（えいす、14歳）

（連絡先）Eメールアドレス

dekakurosu3927@gmail.com

ホームページ：<https://living-field.org/>

（献金振込先）楽天銀行 ノエル支店（支店番号246）

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

